

# 大手シンクタンク 2018年度の経済成長率予測

大手シンクタンク（9機関）による2018年度の国内総生産（GDP）の成長率予測（前年度比）は以下のとおり。

予測の平均値は、実質成長率1.2%、名目1.7%。各機関のコメントをみると、景気は緩やかな拡大が続くとの見方が大勢を占めている。

（2017年12月20日現在、%）

機関名	実質	名目	コメント
農林中金総合研究所	1.3	2.1	消費・設備投資といった民間最終需要が牽引する形で改善基調を継続する見込み。
第一生命経済研究所	1.3	1.9	景気は先行きも好調に推移する可能性が高い。
みずほ総合研究所	1.3	1.1	海外経済の回復を背景に、日本経済は回復基調を維持する見込み。
日本経済研究センター	1.2	1.9	オリンピック関連需要による下支えや省力化投資が本格化することもあり、景気の緩やかな拡大が続く見通し。
日本総合研究所	1.2	1.8	国内民需は底堅く推移し、輸出も世界的な設備投資意欲の改善などを背景に増加基調が続き、経済成長が続く見通し。
ニッセイ基礎研究所	1.2	1.6	当面は企業部門（輸出+設備投資）主導の経済成長が続くことが予想される。
大和総研	1.1	1.5	個人消費を中心とした内需は回復傾向が続き、世界経済の拡大を背景とした外需が日本経済の成長を支え、基調として緩やかな拡大傾向が続く見込み。
三菱UFJリサーチ&コンサルティング	1.1	1.2	オリンピックを控えたインフラ建設などの需要や海外経済の回復の継続を受けて、日本の景気回復は続く見込み。
三菱総合研究所	1.0	1.9	堅調な世界経済を背景とする輸出・生産の拡大や、雇用・所得環境の改善による消費の回復を背景に、緩やかな成長持続を見込む。
（9機関平均）	1.2	1.7	

資料：各機関発表およびHP等をもとに当研究所にて作成

## <参考>OECD（経済協力開発機構）の経済見通し

（実質GDP成長率、%）

	日本	米国	ユーロ圏	英国	OECD全体	中国	インド	ロシア	ブラジル	世界
2017年	1.5	2.2	2.4	1.5	2.4	6.8	6.7	1.9	0.7	3.6
2018年	1.2	2.5	2.2	1.2	2.4	6.6	7.0	1.9	1.9	3.7
2019年	1.0	2.1	1.9	1.1	2.1	6.4	7.4	1.5	2.3	3.6

資料：OECD Economic Outlook 2017年11月をもとに当研究所にて作成

（注）中国・インド・ロシア・ブラジルはOECD非加盟国